

クローズアップ NGO・NPO

特定非営利活動法人

国際文化青年交換連盟日本委員会 (ICYEJAPAN)

事務局長 宇梶 朋子

国際交流 ～平和への架け橋～

39カ国で相互に交換交流

ICYEJAPANは1958年に発足し、50年以上日本人の海外ボランティア派遣事業と外国人ボランティア招聘事業を続けてきました。ボランティア活動を通じた国際交流・国際協力を行い、平和へつなげていくことをミッションとしています。ICYEはInternational Cultural Youth Exchangeの略で、日本での団体名は国際文化青年交換連盟日本委員会と言います。活動起源は1948年にドイツとアメリカとの間で始まったキリスト教団体同士のボランティア交換です。ICYE連盟に加盟をした各国の事務局が、ボランティア派遣生の送り出しや受け入れ、各種の国際交流イベントを開催しています。今ではアジア、アフリカ、オセアニア、中南米、北米、ヨーロッパなど世界39カ国へとネットワークを広げており、さらに新しい国とのネットワークも徐々につながってきています。また、ドイツ・ベルリンのICYE連盟本部はユネスコやEUが上位団体となっており、60年以上民間・非営利での活動を続けてきております。

各国のボランティア活動は、その国の特徴によって変わってきます。例えば、ニュージーランドなら自然公園やキャンプ地のプログラム、ウガンダなら小中学校での教師支援や孤児院ボランティア、メキシコならストリートチルドレンの保護活動などと、各国で多種多様なプログラムを展開しています。



ICYEのネットワーク

三つの国際交流

ICYEJAPANの国際交流活動は三つに分かれます。一つ目は、海外のボランティアプログラムに参加すること。二つ目は、国内のボランティアスタッフとしての関わり。三つ目は国内外で行われる国際交流イベントに参加することです。

一つ目の国際交流活動は、日本からICYEプログラムを通して各国へ行き、39カ国のICYE委員会がコーディネートするボランティアプログラムに参加する形で行います。派遣先では、日本人がほとんどいない環境での活動となるため、他の国から来ているボランティア派遣生との交流や現地の人々との関わりが自然と盛んになります。また、ボランティアという立場は学生や旅行者との立場とちがって現地では受け入れられやすい存在であるため、より深い交流ができるという点もあります。ツアー旅行や語学留学とはまた一味ちがった形の国際交流ができることでしょう。例えば、ボ

ランティアとして関わる学校や施設では英語だけでなく現地の言葉が話されている場合がほとんどです。そのような環境の中で、生きた言葉を覚えたり、さまざまな形でのコミュニケーション能力が問われる経験をすることもあります。



モルドバの孤児院で折り紙を教えている様子

各国に行く日本人が一人という環境になることがほとんどである点が、ICYEプログラムの特色です。各国プログラムの参加者数には定員があり、日本人の枠は多くても2名ほどです。プログラムに参加する派遣生は、到着するとまずオリエンテーションに参加します。夏の場合はそのオリエンテーションキャンプの規模はかなり大きく、国によっては50名以上の派遣生が集まって、これから過ごす国のルールや言葉を学びます。共通言語は英語とはいえ、さまざまな国から集まった若者たちが約1週間を同じ環境で過ごします。10以上の人種が集まっての新しい文化を学ぶキャンプ。これほど国際的な場所はなかなか無いといえます。そして、夏に始まるこのプログラムは長い人では1年間を仲間と共にその国で暮らすのです。プログラム参加中には一人も日



イギリスに各国からのボランティアが集合

本人に会わないことも少なくありません。

このような日本人が一人という環境は、不安に思う方もいるかもしれません。しかし、生涯全体としてしてみると、とても貴重な経験と言えます。日本の代表として日本について語ったりできるだけだけでなく、世界の同世代の若者たちが日本にどれだけ興味を持っているかを知る良い機会でもあります。自分が日本について知らないことも多くあると実感する人もいます。そのような世界の若者との関わりの中で、言葉を超えたグローバルコミュニケーションの力や、さまざまな視点での問題解決能力を養えるでしょう。また、プログラムを通して出会った人々との絆が、世界についての興味・関心をさらに高めることになります。それが平和について考える第一歩と言えるかもしれません。

現在、述べ762人が日本から海外へ派遣されており、2011年も20名の日本人がフィンランド、デンマーク、ドイツ、スイス、モルドバ、ベトナム、インド、ニュージーランド、メキシコ、コスタリカの各国にてそれぞれプログラムに参加しています。また、世界のICYE加盟各国の間では毎年1,000人以上の派遣生が交換されています。毎年、帰国したプログラム経験者たちは平和へのより高い意識を持ち帰ってくれています。



インドでの教育支援

さて、ICYEJAPANの国際交流活動の二つ目は、国内でボランティア活動に関わることです。例えば、他の国から来たボランティア留学生たちの活動を日本でコーディネートしたりサポートしたりすることが国際交流そのものです。また、3か月から1年間は日本各地でボランティア活動を行うため、各地域・施設において異文化交流が行

われることとなります。外国人が住んでいない地域でも、ボランティア留学生を受け入れることで子供たちや広い世代の方々と交流をしたり、お互いの文化を伝え合ったりして国際交流の場が作られています。現在、50人が国内ボランティアの登録をしており、さまざまな場面でサポートしてくれています。また、北海道から広島まで、各地のボランティア登録先は20カ所以上あり、ボランティア留学生を受け入れる形の国際交流活動にご協力いただいています。テレビやインターネットの情報を通して得る異文化ではなく、身近に感じられるその国際交流の形は、世界のことを真剣に考えるきっかけとなっていることも多いようです。



スイス、コスタリカからボランティアで来日

三つ目のイベント活動もさまざまです。ICYEJAPANでは、各国の文化や料理を紹介する「タベ」シリーズや長期ボランティアの経験を紹介する「道草のスヌメ」、さまざまな言語で行われるワンコイン外国語喫茶など、国際交流イベントも行っております。それらのイベントでは、ICYEプログラムに参加しているボランティア留学生たちが関わるだけでなく、50年間の間にICYEを通じて海外に派遣された帰国生たちが各国で経験した文化や言語を持ち寄ります。現在ICYE加盟国は39カ国となっておりますが、延べ50カ国にもわたる派遣生たちからの生の声は、これらのイベントでしか知ることのできない貴重な国際交流体験となるでしょう。興味のある方は是非ICYEJAPANのHPなどでチェックしてみてください。



ウガンダの学校で子どもたちと談らん

以上、三つの形の国際交流についてご紹介しましたが、共通点は「国際交流・異文化理解を通して世界をより身近に感じる」ということです。平和への一歩は、まず世界を身近に感じることはないでしょうか。現代の情報化社会の中では、あらゆる情報を手に入れることが容易になりました。異文化に関する情報も例外ではありません。しかし、平和につながる国際交流や異文化への理解となると、自分の目で見て体験することも重要な要素です。ICYEJAPANでは生の異文化に直接触れる活動を今後も大切にしてゆきたいと思っています。

■ 新たな取り組み

近年、新たな取り組みとして「自治体や他法人との協力強化」と「ギャップイヤーの推進」を進めております。

まず、一つ目の「自治体や他法人との協力強化」については、企業から海外研修を受諾していることが挙げられます。グローバル人材育成を進める企業が、ICYEのボランティアプログラムを海外研修として使用しています。また、今回の東日本大震災へ外国人ボランティアを派遣するために、さまざまな他団体との連携を始めました。7月には、TOEFLを主催しているCIEE（国際教育交換協議会）との国際ワークキャンプとして岩手県山田町へICYEのボランティア留学生を派遣しました。また、金光教の国際センターさんのご協力により、気仙沼にてICYEのボランティア留学生が復興支援のボランティア活動に参加することが可能になりました。今後

も、復興支援ボランティアのコーディネートをさまざまな形で進めて行く予定です。

二つ目は、「日本版ギャップイヤー制度の推進」です。ギャップイヤー制度とは、イギリスで1960年代に始まった休学・休職の慣習です。大学入学前や在学中、または就職前に1~2年ほどの時間を取り、バックパッカーや語学留学などの海外生活体験、ボランティアやインターンなどの社会体験をすることがギャップイヤーと呼ばれるようになりました。海外においては、就職の際にこのギャップイヤー体験としてどんな活動をしたのかということが重要視されています。同じ国際交流でも、イベントに参加するレベルと実際に海外での異文化体験をしているかどうかで評価も変わってくるといわれています。現在、日本でも学生のうちにギャップイヤーを取って海外に行く動きが強まっています。ICYEJAPANでは「ギャップイヤーの推進」を行い、若者がより多くの国際交流の場や海外生活体験のチャンスを得られる仕組みづくりへの協力を進めています。若い時に長い期間世界や日本と向き合うことは、自分自身を成長させるだけでなく、国際協力や平和への考え方を育てる機会となります。ギャップイヤーをきっかけとして、日本が世界での平和活動により貢献してゆけるような未来を期待しています。

■ 今後の展望

今後の展望は大きく二つあります。これまでの国際協力の形は、主に海外ボランティアや国内イベントに参加してもらったりする個人参加型が主でした。今後は、参加者自らが積極的に国際交流のイベントを運営したり、グローバルな視点を持つような環境へ飛び込んでゆける環境づくりにも協力したいと思っています。

まず、一つ目は他の団体や企業と提携しての海外ボランティア派遣プログラム作成です。これまで、ICYEJAPANでは個人の参加者がメインでした。グローバル化が進んだ現在、海外研修や海外でのボランティア体験への団体・企業単位でのニーズが増えてきているようです。日本企業のグローバル化や地方自治体で働く方々のスキルアップや意識改革へ貢献するためにも、さまざまな形

で協力・コラボレートしていきたいと思っております。

二つ目は、外国人ボランティア受け入れ事業におけるプログラム範囲の拡大です。こちらは、地方自治体の方々とは是非協力して広げてゆきたいと考えています。例えば、グローバル化への意識が高い地方自治体様に継続的に外国人ボランティアを受け入れていただき、積極的な国際交流イベント開催をする予定です。上記の活動を通して、ICYEJAPANを通じて日本に来たい若者に日本文化を知ってもらおうと同時に、地域のよさを世界にアピールする機会を作ることができると思います。地域と世界をつなぐ、橋渡しができるプログラムづくりを国内で展開していく予定です。

■ まとめ

国際交流とはどんなことでしょうか。外国人との交流ができる活動でしょうか。それとも、国際的なイベントを指すのでしょうか。一つにはくることができないと思います。異国の写真や情報を閲覧できるということも国際的な体験になります。また、日本に無い考え方に触れることができることさえも国際交流として考えられるかもしれません。何よりも、異文化や新しい考え方に出会って視野が広がるのが国際交流の醍醐味と言えるのではないのでしょうか。ICYEJAPANでは、より多くの方々にそのような体験をしてもらうことで豊かな心を育て、平和について真剣に考えるきっかけとなる活動をしたいと考えています。外国人と話すことだけが交流ではないはずで、知らない世界についての新しい情報を得るとか、外国の雰囲気や味を味わえる環境に行くといった体験も国際交流の一つです。また、スポーツやゲームなどを通じた交流も最近は盛んになってきています。

国際交流は国際協力や平和に繋がっている架け橋のようなものです。まずは一歩踏み出して、新しいものに触れることが大切かもしれません。ICYEJAPANはそのような国際交流を盛り上げる団体として、活動を広げてゆきたいと思っております。